

鳥獣害対策協議会からのお知らせ



住宅街に出没する「ハナレザル」について

ニホンザルは本来群れで生活しますが、オスザルは成長すると群れから離れ「ハナレザル」として単独で行動をすることがあります。ほとんどはしばらくするといなくなりませんが、エサを与えられるなどして人に慣れてしまったサルは、同じ場所に居続けることがあります。

野生のサルを見かけたら、慌てず落ち着いて行動し、次のことにご注意ください。

① 近寄らない

野生のサルは人に慣れていないため、不用意に近づくと襲われることがあります。(小さいお子さんや女性、お年寄りには特に危険ですのでご注意ください。)

② 目を合わせない

目を合わせると、サルが威嚇されたと勘違いして襲ってくる場合があります。直接目を合わせずに、サルを確認しながら後ずさりするように距離をとってください。(背中を見せると飛びかかってくる場合があります。)

③ サルを刺激しない

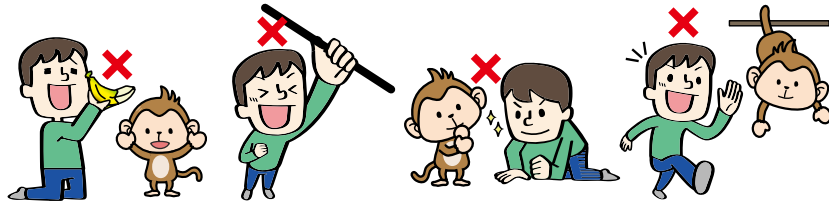
サルには防衛本能があるので、石を投げたり、棒などを振り上げたりして威嚇すると、興奮して襲ってくる場合があります。

④ エサを与えない、食べ物を見せない・放置しない

エサを与えると人間を怖がらなくなり、サルが居つくことがあります。また、エサをもらおうとして、人の荷物を奪ったり、噛みついたりすることがあります。

意図的なエサやりに限らず、収穫しない果樹の放置や、ペットのエサを放置するなどの行為も、エサを与えているのと同じです。エサとなるものを野外に放置するのはやめましょう。

また、エサを求めて住居内に入り込むことがありますので、戸締まりを徹底しましょう。(カギを掛けていないと、窓やドアを開けて侵入してきます。)



町内に出没するニホンザルの群れについて

南越前町内で行動しているニホンザルの群れは、主に次の2つです。

【南越前C群78頭 (令和5年10月10日頭数調査実施)】

主に日野川の東側、上平吹区から八乙女区、杣木保区にかけての範囲で行動する群れです。令和5年度、GPSによる行動圏調査を実施しました。それによると、春は野見ヶ岳山頂付近まで移動するなど、他の季節と比較して山中での移動が多くみられました。行動圏は小さく、八乙女区や社谷区、国道476号線より南には移動しませんでした。夏から冬にかけては、行動圏のほぼ全域へ移動しました。特に秋には行動範囲が広がり、越前市下平吹地区や今庄付近まで移動することもありました。

令和6年度、南越前C群については、追い払いのしやすい30頭前後への個体数調整(50頭前後の捕獲)を実施する予定です。

【南越前D群31頭 (令和6年3月7日頭数調査実施)】

主に日野川の西側、東谷区から宇津尾区にかけての範囲で行動する群れです。令和6年度、南越前D群については、GPSによる行動圏調査を実施する予定です。

丹南地区の主要なサル群れの行動圏



©Open Street Map contributors.
国土数値情報(行政区域データ)、
「サルどこネット」の令和5年の情報より作成

「サルどこネット」について

サル群れの位置情報は「サルどこネット」で確認できます。

(<https://www.sarudoko.net/view/>)

サルどこネットはこちら▶

